QoS: DiffServ for Quality of Service 概要設定ガイド

初版：2013 年 01 月 16 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system.All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries.To view a list of Cisco trademarks, go to this URL:http://www.cisco.com/go/trademarks.Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners.The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

最初にお読みください 1

DiffServ MIB 3

機能情報の確認 3

DiffServ MIB に関する情報 4

DiffServ MIB に関する制約事項 4

MQC と DiffServ MIB 5

階層型ポリシーと DiffServ MIB 5

DiffServ MIB の設定方法 6

DiffServ MIB の有効化 6

DiffServ MIB の設定例 7

例：DiffServ MIB の有効化 7

例：DiffServ MIB SNMP Walk の出力 7

その他の参考資料 11

DiffServ MIB の機能情報 12

第 1 章

最初にお読みください

Cisco IOS XE 16 に関する重要な情報

Cisco IOS XE リリース 3.7.0E（Catalyst スイッチング用）および Cisco IOS XE リリース 3.17S（アクセスおよびエッジルーティング用）の 2 つのリリースは、コンバージドリリースの 1 つのバージョン - Cisco IOS XE 16 - に統合されました。この 1 つのリリースでスイッチングおよびルーティング ポートフォリオのアクセスおよびエッジ製品を幅広くカバーしています。

（注） 技術構成ガイドの機能情報の表に、機能の導入時期を記載しています。他のプラットフォームがその機能をサポートした時期については、記載があるものも、ないものもあります。特定の機能が、使用しているプラットフォームでサポートされているかどうかを判断するには、製品のランディング ページに掲載された技術構成ガイドを参照してください。技術構成ガイドが製品のランディング ページに表示されると、その機能が該当のプラットフォームでサポートされているかどうかが示されます。

第 2 章

DiffServ MIB

DiffServ MIB は、それが有効化されているデバイスからの既存設定情報および統計情報のポーリングに使用されます。

顧客に差別化サービスを提供するネットワーク サービス プロバイダーは、サービス レベル契約（SLA）を満たすために、ルータを設定してモニタできる必要があります。DiffServ は、ネットワーク サービス プロバイダーが特定の種類のトラフィックを優先するために、クラスを使用してネットワーク トラフィックを制御できるようにするプロトコルです。たとえば、音声トラフィックは比較的中断のないデータフローを必要とし、電子メールなどの他の種類のトラフィックよりも優先させることができます。DiffServ は、サービスのさまざまなレベル（たとえば、プレミアム、ゴールド、シルバー、ブロンズ）を区別する手段として顧客に提供できます。そのため、SLA および DiffServ テクノロジーは密接に関連付けられます。

- 機能情報の確認，3 ページ
- DiffServ MIB に関する情報，4 ページ
- DiffServ MIB の設定方法，6 ページ
- DiffServ MIB の設定例，7 ページ
- その他の参考資料，11 ページ
- DiffServ MIB の機能情報，12 ページ

機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、Bug Search Tool およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

DiffServ MIB に関する情報

DiffServ MIB に関する制約事項

DiffServ MIB は、このセクションに記載されている構成をサポートしません。ユーザがこれらの構成をモジュラ QoS CLI（MQC）から設定し、それらが転送パスで機能している場合も同じです。

（注） この制約事項によって構成が拒否されることはありません。サポートされない構成に Diffserv MIB が公開されることはないためです。

- DiffServ MIB は、Simple Network Management Protocol（SNMP）要求を読み取る機能のみを提供します。つまり、プロビジョニング タスクの実行には使用できません。
- 同じ class-map 定義で複数のフィルタを使用することはできません。したがって、サポートされるクラス マップでは、含まれているフィルタ定義は 1 つのみであり、match-any タイプや match-all タイプは無関係となります。

  （注） 1 つのアクセス コントロール リスト（ACL）が存在し、複数の Cisco Application Control Engine（ACE）が含まれるクラス マップはサポートされます。1 つの Differentiated Services Code Point （DSCP）フィルタが存在し、1 つの一致基準の一部として複数の DSCP 値を取るクラス マップもサポートされます。ただし、match-not タイプはサポートされません。

- 公平キューイングはサポートされません。
- マーキングは、階層型ポリシーの親クラスではサポートされません。
- 子クラスでキューイングが設定されている場合、親クラスでのポリシングはサポートされません。
- プライオリティおよび帯域幅機能の構成の場合、関連テーブルには kbps または相対パーセンテージの値のみが入力されます。
- デフォルト値は MIB テーブルに入力されません。

  （注） 分類子テーブルには、アドレス、ポート、関連フィールドに対して定義されたデフォルト設定が含まれます。

- Random-detect 機能は、階層型ポリシーの親クラスではサポートされません。
- 子優先（ボトムアップ）ポリシングのみが階層型ポリシーでサポートされます。

- 現在のルーティング プラットフォームでサポートされていないフィールドには、値 0 または適切なデフォルト値が含まれています。たとえば、Cisco ASR1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータは、ポリサー Color-Aware 統計情報をサポートしていないため、これらのルータの該当する統計情報の関連フィールドは 0 に設定されています。

MQC と DiffServ MIB

ほとんどのシスコ製品は、モジュラ QoS CLI（MQC）を使用して、業界標準の Differentiated Services アーキテクチャ サービスのプロビジョニングをサポートします。一方、差別化サービス（DiffServ MIB）のプロビジョニングの業界標準は MQC の実装とは異なります。DiffServ MIB 機能は、MQC 機能の上に実装され、サービス プロビジョニングの手順を DiffServ MIB から MQC に変換します。

DiffServ MIB を MQC プロビジョニング言語上に実装することにより、引き続きシスコ製品で MQC を使用して QoS ポリシーを有効化できます。また、MQC をサポートするシスコ製品は、すでに cbQoSMIB と MQC と間のアクションのダイレクト マッピングをサポートしています。cbQoSMIB はシスコが推奨する MIB です。DiffServ MIB の実装は、cbQoSMIB を置き換えるものではありません。

Diffserv MIB 機能は、DiffServ MIB RFC で定義される一連のテーブル内の各フィールドを、MQC でサポートされるアクション（アクションを使用できる場合）にマッピングします。

階層型ポリシーと DiffServ MIB

階層型ポリシーでは、モジュラ QoS CLI（MQC）が階層の最上位から階層の最下位まで、すべての分類手順を最初に実行します。その後に、次の順序で機能を実行します：マーキング（上から下へ）、ポリシング（下から上へ）、キューイング（下から上へ）。

階層型ポリシーの MQC 実装を DiffServ MIB の実装に変換するには、階層を連鎖された複数の機能ブロックに分けて、機能の実行順序を決定する必要があります。

（注） MQC 階層の機能の組み合わせがすべて DiffServ MIB でサポートされるというわけではありません。詳細については、「DiffServ MIB に関する制約事項」を参照してください。

DiffServ MIB の設定方法

DiffServ MIB の有効化

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **qos diffservmib**
4. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**enable** 例： `Device> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**configureterminal** 例： `Device# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**qos diffservmib** 例： `Device(config)# qos diffservmib`	Quality of Service（QoS）ポリシー マップに対する DiffServ MIB のサポートを有効化します。
ステップ 4	**end** 例： `Device(config)# end`	（任意）特権 EXEC モードに戻ります。

DiffServ MIB の設定例

例：DiffServ MIB の有効化

次の例は、Quality of Service（QoS）ポリシー マップに対する DiffServ MIB のサポートを有効化する方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# qos diffservmib
Device(config)# exit
```

例：DiffServ MIB SNMP Walk の出力

次に示すのは、DiffServ MIB の SNMP Walk の出力例です。

```
diffServDataPathStart.1.1 = diffServClfrStorage.201
diffServDataPathStart.10.2 = diffServClfrStorage.202
diffServDataPathStorage.1.1 = volatile(2)
diffServDataPathStorage.10.2 = volatile(2)
diffServDataPathStatus.1.1 = active(1)
diffServDataPathStatus.10.2 = active(1)
diffServClfrNextFree.0 = 0
diffServClfrStorage.201 = volatile(2)
diffServClfrStorage.202 = volatile(2)
diffServClfrStatus.201 = active(1)
diffServClfrStatus.202 = active(1)
diffServClfrElementNextFree.0 = 0
diffServClfrElementPrecedence.201.2011 = 255
diffServClfrElementPrecedence.202.2021 = 255
diffServClfrElementNext.201.2011 = diffServMeterSucceedNext.10001
diffServClfrElementNext.202.2021 = diffServMeterSucceedNext.10002
diffServClfrElementSpecific.201.2011 = diffServMultiFieldClfrAddrType.1
diffServClfrElementSpecific.202.2021 = diffServMultiFieldClfrAddrType.1
diffServClfrElementStorage.201.2011 = volatile(2)
diffServClfrElementStorage.202.2021 = volatile(2)
diffServClfrElementStatus.201.2011 = active(1)
diffServClfrElementStatus.202.2021 = active(1)
diffServMultiFieldClfrNextFree.0 = 0
diffServMultiFieldClfrAddrType.1 = unknown(0)
diffServMultiFieldClfrAddrType.2 = ipv4(1)
diffServMultiFieldClfrDstAddr.1 =
diffServMultiFieldClfrDstAddr.2 = c9
diffServMultiFieldClfrDstPrefixLength.1 = 0
diffServMultiFieldClfrDstPrefixLength.2 = 8
diffServMultiFieldClfrSrcAddr.1 =
diffServMultiFieldClfrSrcAddr.2 = c0 a8 01
diffServMultiFieldClfrSrcPrefixLength.1 = 0
diffServMultiFieldClfrSrcPrefixLength.2 = 24
diffServMultiFieldClfrDscp.1 = 41
diffServMultiFieldClfrDscp.2 = -1
diffServMultiFieldClfrFlowId.1 = 0
diffServMultiFieldClfrFlowId.2 = 0
diffServMultiFieldClfrProtocol.1 = 255
diffServMultiFieldClfrProtocol.2 = 6
diffServMultiFieldClfrDstL4PortMin.1 = 0
diffServMultiFieldClfrDstL4PortMin.2 = 1000
diffServMultiFieldClfrDstL4PortMax.1 = 65535
diffServMultiFieldClfrDstL4PortMax.2 = 10000
diffServMultiFieldClfrSrcL4PortMin.1 = 0
```

```
diffServMultiFieldClfrSrcL4PortMin.2 = 2000
diffServMultiFieldClfrSrcL4PortMax.1 = 65535
diffServMultiFieldClfrSrcL4PortMax.2 = 20000
diffServMultiFieldClfrStorage.1 = volatile(2)
diffServMultiFieldClfrStorage.2 = volatile(2)
diffServMultiFieldClfrStatus.1 = active(1)
diffServMultiFieldClfrStatus.2 = active(1)
diffServMeterNextFree.0 = 0
diffServMeterSucceedNext.10001 = diffServActionInterface.111
diffServMeterSucceedNext.10002 = diffServActionInterface.121
diffServMeterFailNext.10001 = diffServActionInterface.112
diffServMeterFailNext.10002 = diffServActionInterface.122
diffServMeterSpecific.10001 = diffServTBParamType.8000
diffServMeterSpecific.10002 = diffServTBParamType.8000
diffServMeterStorage.10001 = volatile(2)
diffServMeterStorage.10002 = volatile(2)
diffServMeterStatus.10001 = active(1)
diffServMeterStatus.10002 = active(1)
diffServTBParamNextFree.0 = 0
diffServTBParamType.8000 = diffServTBParamSimpleTokenBucket
diffServTBParamType.8001 = diffServTBParamSrTCMBlind
diffServTBParamRate.8000 = 64000
diffServTBParamRate.8001 = 512000
diffServTBParamBurstSize.8000 = 2000
diffServTBParamBurstSize.8001 = 5120
diffServTBParamInterval.8000 = 250000
diffServTBParamInterval.8001 = 10000
diffServTBParamStorage.8000 = volatile(2)
diffServTBParamStorage.8001 = volatile(2)
diffServTBParamStatus.8000 = active(1)
diffServTBParamStatus.8001 = active(1)
diffServActionNextFree.0 = 0
diffServActionInterface.111 = 10
diffServActionInterface.121 = 10
diffServActionNext.111 = diffServDscpMarkActEntry.41
diffServActionNext.121 = diffServAlgDropType.500
diffServActionSpecific.111 = diffServCountActOctets.111
diffServActionSpecific.121 = diffServCountActOctets.121
diffServActionStorage.111 = volatile(2)
diffServActionStorage.121 = volatile(2)
diffServActionStatus.111 = active(1)
diffServActionStatus.121 = active(1)
diffServDscpMarkActDscp.0 = 0
diffServDscpMarkActDscp.1 = 1
diffServDscpMarkActDscp.2 = 2
diffServDscpMarkActDscp.3 = 3
diffServDscpMarkActDscp.4 = 4
diffServDscpMarkActDscp.5 = 5
diffServDscpMarkActDscp.6 = 6
diffServDscpMarkActDscp.7 = 7
diffServDscpMarkActDscp.8 = 8
diffServDscpMarkActDscp.9 = 9
diffServDscpMarkActDscp.10 = 10
diffServDscpMarkActDscp.11 = 11
diffServDscpMarkActDscp.12 = 12
diffServDscpMarkActDscp.13 = 13
diffServDscpMarkActDscp.14 = 14
diffServDscpMarkActDscp.15 = 15
diffServDscpMarkActDscp.16 = 16
diffServDscpMarkActDscp.17 = 17
diffServDscpMarkActDscp.18 = 18
diffServDscpMarkActDscp.19 = 19
diffServDscpMarkActDscp.20 = 20
diffServDscpMarkActDscp.21 = 21
diffServDscpMarkActDscp.22 = 22
diffServDscpMarkActDscp.23 = 23
diffServDscpMarkActDscp.24 = 24
diffServDscpMarkActDscp.25 = 25
diffServDscpMarkActDscp.26 = 26
diffServDscpMarkActDscp.27 = 27
diffServDscpMarkActDscp.28 = 28
diffServDscpMarkActDscp.29 = 29
diffServDscpMarkActDscp.30 = 30
```

```
diffServDscpMarkActDscp.31 = 31
diffServDscpMarkActDscp.32 = 32
diffServDscpMarkActDscp.33 = 33
diffServDscpMarkActDscp.34 = 34
diffServDscpMarkActDscp.35 = 35
diffServDscpMarkActDscp.36 = 36
diffServDscpMarkActDscp.37 = 37
diffServDscpMarkActDscp.38 = 38
diffServDscpMarkActDscp.39 = 39
diffServDscpMarkActDscp.40 = 40
diffServDscpMarkActDscp.41 = 41
diffServDscpMarkActDscp.42 = 42
diffServDscpMarkActDscp.43 = 43
diffServDscpMarkActDscp.44 = 44
diffServDscpMarkActDscp.45 = 45
diffServDscpMarkActDscp.46 = 46
diffServDscpMarkActDscp.47 = 47
diffServDscpMarkActDscp.48 = 48
diffServDscpMarkActDscp.49 = 49
diffServDscpMarkActDscp.50 = 50
diffServDscpMarkActDscp.51 = 51
diffServDscpMarkActDscp.52 = 52
diffServDscpMarkActDscp.53 = 53
diffServDscpMarkActDscp.54 = 54
diffServDscpMarkActDscp.55 = 55
diffServDscpMarkActDscp.56 = 56
diffServDscpMarkActDscp.57 = 57
diffServDscpMarkActDscp.58 = 58
diffServDscpMarkActDscp.59 = 59
diffServDscpMarkActDscp.60 = 60
diffServDscpMarkActDscp.61 = 61
diffServDscpMarkActDscp.62 = 62
diffServDscpMarkActDscp.63 = 63
diffServCountActNextFree.0 = 0
diffServCountActOctets.111 = 0x000888888
diffServCountActOctets.121 = 0x000999999
diffServCountActPkts.111 = 0x000000088
diffServCountActPkts.121 = 0x000000099
diffServCountActStorage.111 = volatile(2)
diffServCountActStorage.121 = volatile(2)
diffServCountActStatus.111 = active(1)
diffServCountActStatus.121 = active(1)
diffServAlgDropNextFree.0 = 0
diffServAlgDropType.500 = randomDrop(4)
diffServAlgDropType.501 = other(1)
diffServAlgDropType.502 = headDrop(3)
diffServAlgDropNext.500 = nullOID
diffServAlgDropNext.501 = diffServQNext.600
diffServAlgDropNext.502 = diffServQNext.601
diffServAlgDropQMeasure.500 = nullOID
diffServAlgDropQMeasure.501 = diffServQNext.600
diffServAlgDropQMeasure.502 = diffServQNext.601
diffServAlgDropQThreshold.500 = 0
diffServAlgDropQThreshold.501 = 64
diffServAlgDropQThreshold.502 = 64
diffServAlgDropSpecific.500 = nullOID
diffServAlgDropSpecific.501 = nullOID
diffServAlgDropSpecific.502 = diffServRandomDropMinThreshBytes.701
diffServAlgDropOctets.500 = 0x000000000
diffServAlgDropOctets.501 = 0x000777777
diffServAlgDropOctets.502 = 0x000000000
diffServAlgDropPkts.500 = 0x000000000
diffServAlgDropPkts.501 = 0x000007777
diffServAlgDropPkts.502 = 0x000000000
diffServAlgRandomDropOctets.500 = 0x000000000
diffServAlgRandomDropOctets.501 = 0x000000000
diffServAlgRandomDropOctets.502 = 0x000666666
diffServAlgRandomDropPkts.500 = 0x000000000
diffServAlgRandomDropPkts.501 = 0x000000000
diffServAlgRandomDropPkts.502 = 0x000006666
diffServAlgDropStorage.500 = volatile(2)
diffServAlgDropStorage.501 = volatile(2)
diffServAlgDropStorage.502 = volatile(2)
```

```
diffServAlgDropStatus.500 = active(1)
diffServAlgDropStatus.501 = active(1)
diffServAlgDropStatus.502 = active(1)
diffServRandomDropNextFree.0 = 0
diffServRandomDropMinThreshBytes.701 = 0
diffServRandomDropMinThreshPkts.701 = 1
diffServRandomDropMaxThreshBytes.701 = 0
diffServRandomDropMaxThreshPkts.701 = 10
diffServRandomDropProbMax.701 = 1000
diffServRandomDropWeight.701 = 512
diffServRandomDropSamplingRate.701 = 0
diffServRandomDropStorage.701 = volatile(2)
diffServRandomDropStatus.701 = active(1)
diffServQNextFree.0 = 0
diffServQNext.600 = diffServSchedulerNext.800
diffServQNext.601 = diffServSchedulerNext.801
diffServQMinRate.600 = diffServMinRatePriority.900
diffServQMinRate.601 = nullOID
diffServQMaxRate.600 = nullOID
diffServQMaxRate.601 = diffServMaxRateAbsolute.901
diffServQStorage.600 = volatile(2)
diffServQStorage.601 = volatile(2)
diffServQStatus.600 = active(1)
diffServQStatus.601 = active(1)
diffServSchedulerNextFree.0 = 0
diffServSchedulerNext.800 = diffServSchedulerNext.801
diffServSchedulerNext.801 = nullOID
diffServSchedulerMethod.800 = diffServSchedulerPriority
diffServSchedulerMethod.801 = diffServSchedulerWFQ
diffServSchedulerMinRate.800 = diffServMinRatePriority.901
diffServSchedulerMinRate.801 = nullOID
diffServSchedulerMaxRate.800 = nullOID
diffServSchedulerMaxRate.801 = nullOID
diffServSchedulerStorage.800 = volatile(2)
diffServSchedulerStorage.801 = volatile(2)
diffServSchedulerStatus.800 = active(1)
diffServSchedulerStatus.801 = active(1)
diffServMinRateNextFree.0 = 0
diffServMinRatePriority.901 = 4294967295
diffServMinRatePriority.902 = 1
diffServMinRateAbsolute.901 = 128
diffServMinRateAbsolute.902 = 0
diffServMinRateRelative.901 = 0
diffServMinRateRelative.902 = 750
diffServMinRateStorage.901 = volatile(2)
diffServMinRateStorage.902 = volatile(2)
diffServMinRateStatus.901 = active(1)
diffServMinRateStatus.902 = active(1)
diffServMaxRateNextFree.0 = 0
diffServMaxRateAbsolute.902.1 = 1000
diffServMaxRateAbsolute.902.2 = 0
diffServMaxRateRelative.902.1 = 0
diffServMaxRateRelative.902.2 = 500
diffServMaxRateThreshold.902.1 = 25000
diffServMaxRateThreshold.902.2 = 0
diffServMaxRateStorage.902.1 = volatile(2)
diffServMaxRateStorage.902.2 = volatile(2)
diffServMaxRateStatus.902.1 = active(1)
diffServMaxRateStatus.902.2 = active(1)
```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『*Cisco IOS Master Commands List, All Releases*』
QoS コマンド	『*Cisco IOS Quality of Service Solutions Command Reference*』

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 3289	『*Management Information Base for the Differentiated Services Architecture*（差別化サービス アーキテクチャの管理情報ベース）』

MIB

MIB	MIB のリンク
DiffServ MIB	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
★枠で囲まれた Technical Assistance の場合★右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

DiffServ MIB の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 *1*：*DiffServ MIB* の機能情報

機能名	リリース	機能情報
DiffServ MIB	15.3(1)T	この機能は、QoS Diffserv MIB（RFC 3289）のサポートを提供します。 次のコマンドが導入または変更されました：**qos diffservmib**